



(昭和10年ごろ)



(昭和17年)

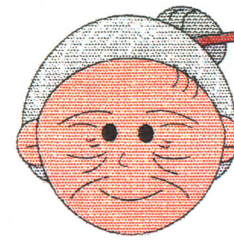
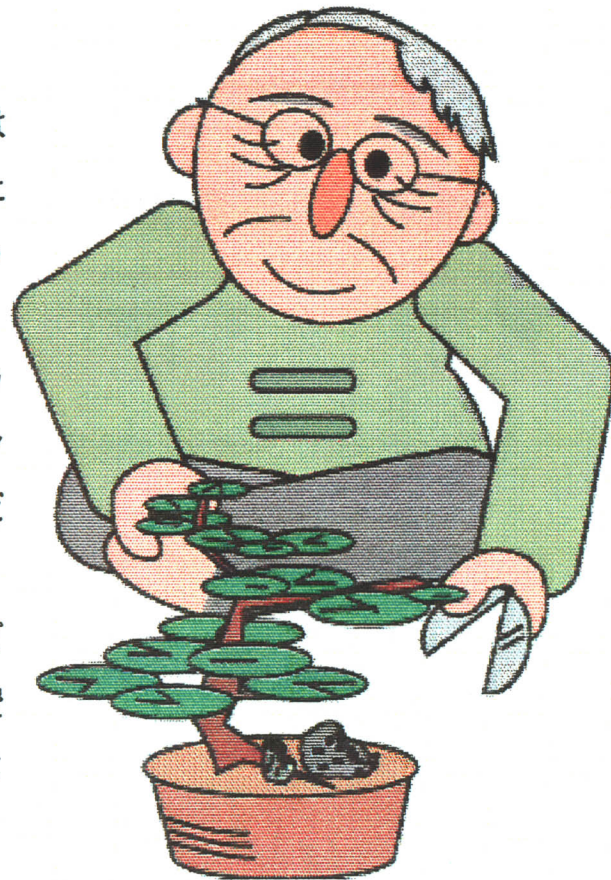
きかんじゅうなどのれんしゅうをする しゃげきくんれんをする女学生

おじいさんの話

せんそうがあったころを思い出すと、本当にこわくなってくるよ。まだ、私は子どもだったから戦争には行かなかったけど、友達のお父さんがせんそうに行っ

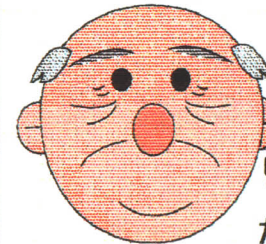
て死んでしまったんだよ。てきのひこうきがとんできて、夜はランプの光が家の外にもれないようにランプのかさにぬのをかぶせてすごしたんだよ。

塙はくうしゅうにはあわなかったけど郡山市がくうしゅうにあった夜は北の空が真っ赤になってね、こわくてねむれなかったよ。



せんそうがあったころは、今のようにお店に行けばなんでも売っていたわけではなく、はいきゅうといって、かぞくの人数分の食料をもらって生活していたんです。米、みそ、しょうゆ、しお、さとう、マッチ、木たん、などです。でもそれだけでは、とてもおなかいっぱいにならなくてね、どの家でも野菜を作ったりしてなんとか食べていたのね。

せんそうのころの遊び



昔は、何でも自分でつくったもんだよ。竹馬やたこを作ったり、みんなであそびながらきょうそうしたもんだ。今のこどもたちは、あんまり外であそばないが、昔は家で遊んでいたらおこられたもんだ。あかんぼうから中学生ぐらいのおおきな人までみんなでいっしょにあそんでたのしかったなあ。



(昭和10年ごろ)

ぼくら、どくガスもへっちゃら



(昭和のはじめ)

夏の体育は川で水泳